

山行報告 : 上州武尊山

【実施日】 2017年1月7日(土) 快晴

【参加者】 CL 柘植(記録)、SL 鈴木憲、吉川

【記録】 川場スキー場リフト終点 10:00⇒12:00 沖武尊山頂⇒13:45 川場スキー場リフト終点
もともとは奥三河の山に行く計画であったが、現地の予報が悪いため中止し、天気のよさそうな土曜一点にしぼって近場での雪山に変更した。上州武尊山は個人的にはさまざまなルートから何度も登っているが、雪山は2回目。10数年前に入会直後に北西の名倉沢沿いから橋本さんリーダーのパーティーに参加していったが、沢沿いのルートは猛烈なラッセルで敗退してしまった。あれからずいぶん経つが、雪山ルートは川場スキー場の再開発にともなってスキー場リフトトップからのルートがメインとなり、こちらからは条件にさえ恵まれればあっけなく登頂できてしまうらしい。今回は一日しか好天が望めないで、こちらから行ってみることにした。

いつものように関越道の事故渋滞で予定より30分以上遅れて川場スキー場に到着する。リフト券売り場での登山者チェックは非常に厳重で驚いたが、それだけスキー場側も真剣に登山者を見守っているということだろう。2本のリフトを乗り継いで10時ごろリフトトップに到着した。ここからは最初に登る剣ヶ峰が眼前に圧倒的な迫力で迫り、とても登れそうには見えないが、ここで敗退した記録も事故も目にしたことはないで、きっと問題なく登れるのだろう。時間が遅いのでトレースもバッチリで多くの登山者が入山しているようだ。



リフトトップにて (背後は剣ヶ峰の南面)



剣ヶ峰の登行 (中景:獅子ヶ鼻山、遠景:谷川岳)



一旦緩斜面に出て前方が剣ヶ峰のピーク



川場谷を囲む峰々が展開 (正面が沖武尊)

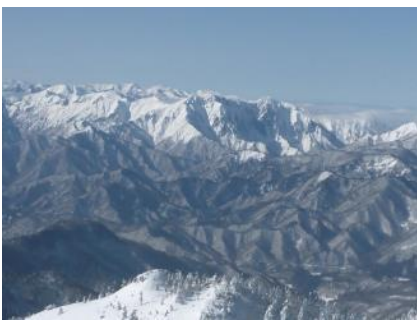
最初からアイゼンで出発する。心配した急登の斜面は登ってみればやはり問題なく剣ヶ峰の山頂に至る。剣ヶ峰からは川場谷を囲むように上州武尊山の峰々が一望に展開して気分も高揚してくる。周囲も関東甲信越中が見えていそうな絶景で、こんな快晴の雪山は久しぶりだ。剣ヶ峰山頂からの降り口数メートルが結構悪く慎重に降りるが、ここをすぎれば沖武尊までは稜線散歩といってよいルート。リフトトップから2時間ほどで沖武尊山頂に着いた。



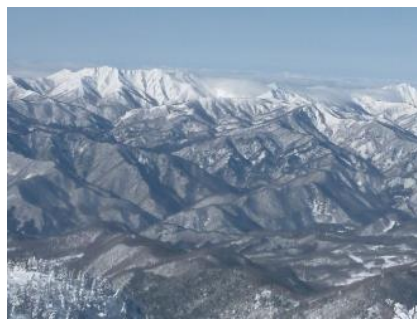
稜線散歩



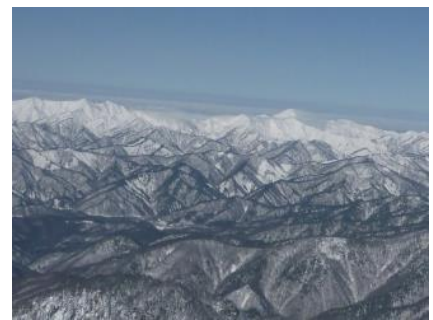
快晴の沖武尊山頂



谷川岳



その右：巻機山方面

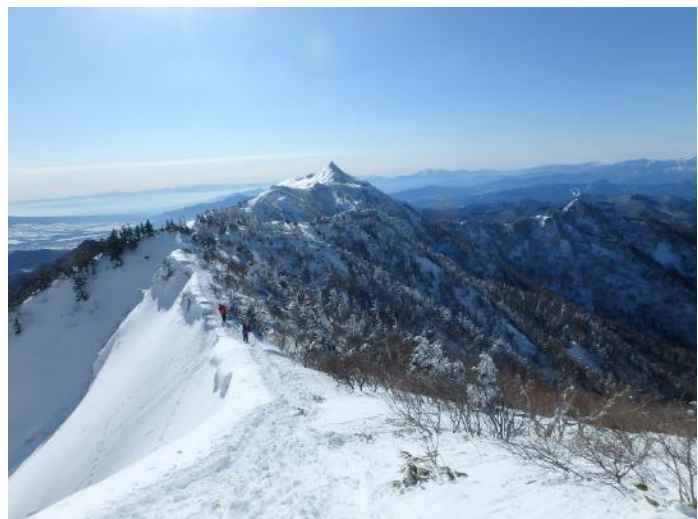


さらに右：中ノ岳方面

方向指示版で周囲の山を確認したり、記念写真を撮ったりするが、風が強くて避ける場所もないので早々に引返すことにする。大きな斜面を降りたところが比較的風も弱く休憩に適しているので、ここでゆっくり休むことにした。帰路は剣ヶ峰が槍ヶ岳のような風貌で近づいてくる。これまた登れるのかいなと思ってしまう風景だが、さっき降りているので、この迫力ある風景も余裕で楽しめる。



山頂から見下ろす稜線



剣ヶ峰を目指して帰路につく



間近に迫る剣ヶ峰



剣ヶ峰の頂上部の登行



剣ヶ峰を越えると広大な関東平野が広がる



上州武尊山概念図

休憩場所から剣ヶ峰を素通りして1ピッチでリフトトップに帰着した。帰りもリフトで降りる。スキーヤーの視点で見るともったいない話だが、ゲレンデを歩いて降りるのは迷惑だし、危険でもある。リフト椅子に座って最後の景色を眺めて今回の雪山山行を終えた。

文句のつけどころのない雪山山行であったが、気持ち的には10数年前に敗退した山行のほうがインパクトは強い。きれいでラクで楽しければよいというものではないヨ・・・というところが登山者心理としては微妙なところ。何となく聞きにくいので確認はしていないが、吉川さんも鈴木憲さんも同じ気持ちではと帰路のクルマの中で内心思った。

柘植 秀樹（記録担当）